

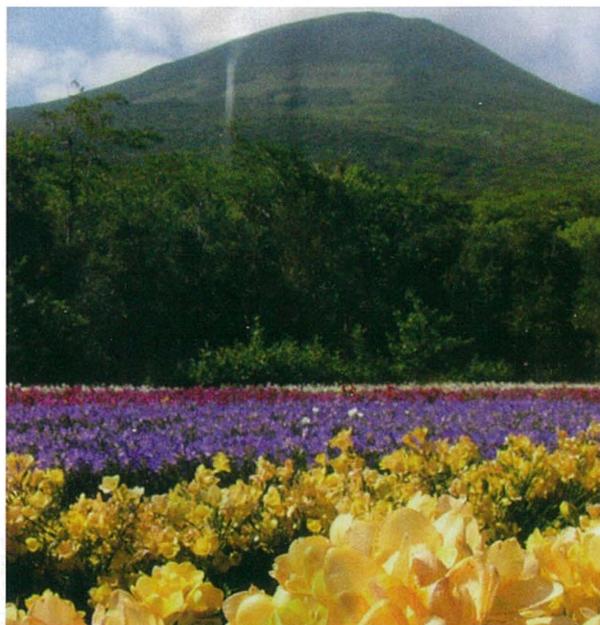


# 東京島しょ郷友連合会だより

## 12号

【発行者】  
東京島嶼郷友連合会  
【発行・編集責任者】  
大澤博紹  
【制作・印刷】  
AIBK企画

### 今年の島巡りは 南国「八丈島」です!



人達との懇親や交流を通して心に残る親睦旅行ができたからだと思っております。

また、連合会では、過去の噴火災害等（昭和五十八年三宅島、昭和六十一年八丈島、平成十二年三宅島、平成二十五年大島土砂災害）の募金活動をきっかけに、生まれた育つた島だけではなく他島の良さも知りたい、行きたい、交流したいという思いで、平成十五年からの旅行を継続しております。今年で十五回となります。

今回の八丈島は平成十九年以来二度目ということもあり、参加者増に繋がったのかとも思っております。

出発は秋の十一月ということでまだ先ですが、現時点で検討している島旅スケジュール(案)を紹介したいと思います。(交通手段は往復とも全日空の飛行機を利用します)当日(十日)は、羽田空港に集合して、十二時十五分の便で八丈島空港に向けて約一時間弱の快適な空の旅を楽しみます。

到着後、宿泊予定の八丈ビューホテルに行き、夕食まで露天風呂(見晴らしの湯)や周辺散策として館内で寛いで過ごしていただきます。夕食は地元の方々と懇親や郷土芸能の披露を予定していますので、飲んで食べて楽しんでいただければと思います。

翌日(十一日)は、朝食後、観光バスで島内の南原千畳敷、浦見ヶ滝、名古屋の展望台等の名所を巡りたいと思います。

この間、昼食や自由行動できる時間を挟んで買い物など楽しんでいただきます。八丈島を十分に堪能して、十七時二十分発の便で、一路、羽田空港を目指して帰ってきます。

現在、八丈島旅行担当幹事と八丈島会員と調整していますが、八丈町役場等の関係各位の皆様にもご理解とご協力をいただきまして、連合会の島巡り旅行が昨年にも増して盛会に開催できるよう引き続き検討していきます。参加者の皆様、体調を万全にご参加いただければ幸いです。

なお、この会報を見て私も行ってみたいと思っっている方がいましたら各島の会長までご連絡ください。

さい。旅行担当としましては会員の皆様のご要望をふまえて、できる限り調整したいと、考えております。

#### 《参考》

『今の八丈島を知る』

(島しまんで配布していたパンフレットから)  
面積 72.18 km<sup>2</sup>  
人口 7,474人  
(六月一日現在)

【東京都亜熱帯区八丈島】  
あなたの宝島へ。

(東京からわずか55分。そこは想像以上の体験が待ち受ける常春の樂園でした。)この島でドキドキの地図を広げよう。

(巡ったり、潜ったり、作ったり、味わったり、知ったり、釣ったり、探ったり、温まったり…。何から



旅行専門部長 河野秀夫  
東京島しょ郷友連合会では、今年の神津島に引き続き、今年も親睦旅行を企画しました。本年十一月十日(土)から十一日(日)の一泊二日の日程で、東京から290kmにある常夏の島「八丈島」へ、そしてオプシオンで青ヶ島(さらに68km南下)に決定しました。

去る四月二十九日に開催された定期総会で募集案内したところ、五月末現在既に、五十二名(内青ヶ島は八名)の皆さんから申し込みいただいております。参加者を出身別にみますと、大島十一名、利島八名、新島四名、神津島十三名、三宅島四名、八丈島十三名との反響の良さに旅行担当幹事として嬉しい限りで、早速、飛行機とホテルの手配に万全を期していきたいと考えております。

これも昨年の神津島会員幹事のご尽力により、神津島の素晴らしい自然を堪能できたことや島の



『青ヶ島(オプシヨン)』  
世界が注目する二重カ  
ララの絶景  
面積 5,98km  
人口 163人  
(五月一日現在)



始めるかは自分次第。思  
うがままに満喫するのが  
島流。  
さあ、あなただけの夕  
カラモノを探しに、黒潮  
の風の中を歩き出しませ  
んか。)

祝・返還五十周年!

憧れの小笠原に初上陸  
島旅編その一(河野)

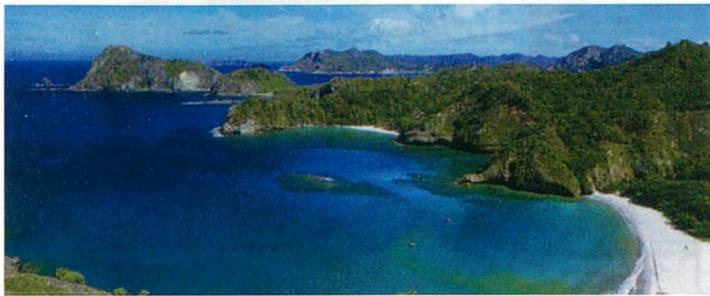
小笠原諸島は戦後米軍  
の統治下にありましたが、島民の思いが実り1  
968年(昭和四十二年)  
日本に返還され、今年五  
十年目の節目を迎えまし  
た。思えば私が生まれた  
大島も、昭和三十年代は  
波浮港に在日米軍の通信  
所がありました。怖いも  
の見たさの好奇心もあり  
よく遊びに行きました  
が、そこは良くも悪くも  
外国を身近に感じたハイ  
カラな治外法権の施設で  
した。

大島小史によれば、こ  
の地は昭和四十四年に返  
還され、それは小笠原返  
還の一年後だったと今回  
初めて知りました。

還暦を過ぎた今、この  
ような原体験が蘇ったの  
か、先日(の定期総会の時、  
大澤会長から小笠原に行  
った話をお聞きしてどう  
しても行きたいという衝  
動が沸き起こりました。

せっかく行くなら記念  
式典が開催される六月三  
十日をと思っていたところ  
、運良く六月二十八日  
の便が空いていました。

東京から千km。片道二



十五時間の船旅の揺れが  
ひどくて同室のイギリス  
大使館のご婦人は酔酔い  
で大変だったというエビ  
ソードを話してくれまし  
た。

当日の天候次第で黒潮  
海流がどのような顔を見  
せるか分かりませんが、  
それも含めて小笠原を丸  
ごと体験してきたいと思  
っています。

この原稿は六月十四日  
に書いていますのでまだ  
行っていないですが、差木  
地小学校の同級生寺沢君  
と二人、どんな島旅にな  
るか今から楽しみです。

「しま山100選」を知っ  
ていますか?

島旅編その二(河野)

突然ですが、日本の1  
00選といえば山、川、  
水、滝、温泉と数々ありま  
す。皆さんもどれかに挑  
戦している、行ったこと  
があるという思い出をも  
っていると思います。

それとは別に「しま山  
100選」というものが  
あるのをご存知でしょう  
か。海に囲まれた島々の  
山の個性と魅力にスポッ  
トをあてて(公財)日本離  
島センターが平成二十八  
年に選定しました。

同センターのHPに  
は、「そもそも島は海の底  
から立ち上がった山であ  
り、その姿は高山のよう  
な雄大さがありますが、  
海拔にすれば1000m  
以上の島山は少なく、体  
力をあまり気にせず頂き  
を極める満足感が得ら  
れ、一年を通じて楽しめる  
山が多いことが魅力で  
す。草花や生きもの、地形  
や地質、全方位のパノラ  
マや多島美、史跡など、島  
山ならではの特別な宝物  
にも出会えるかもしれま  
せん。  
海を渡るとそこは島時  
間。日常をちよつと離れ

大島を舞台にした

「婚活イベント」(続報)  
島旅編その三(河野)

連合会だより第十一号  
でちよつと書きました  
が、現時点の概要を報告  
します。

どの島も共通して結婚  
はしたいが出会いがな  
い、結婚後も島で生活し  
たいという独身男性は多  
いと思います。

そこで大島に嫁ぎたい  
という首都圏の女性(二  
十名)と、大島の独身男性  
(十五名)を募集して、  
一泊二日の船旅で、大島  
の自然を観光しながら開  
催するというものです。

つまり「大島の良さを知  
ってもらおう」大島の人を  
好きになつてもらおう大  
島で結婚、家族をつくつ  
てもらおう」というステッ  
プで、婚活ツアーをふる  
さとの活性化、観光振興、  
人口増につなげられない  
だろうかという思いで  
す。  
町役場や観光事業者の  
皆さん、この企画の趣旨  
をご理解いただき一緒に  
イベントの開催に向けて  
ご協力いただけないでし  
ょうか。



# 私たちが生まれ育った島を自慢し、島の魅力を広く伝える活動をさらに進める

## 東京島嶼郷友連合会 第53回定期総会開催

郷友連合会 理事 梅田勉



三宅島 梅田副会長



都議会議員 三宅正彦様



大島会 秋廣道郎 副会長

### 【総会報告】

四月二十九日(日)アルカディア市ヶ谷に役員、顧問、島嶼ファン等七十一名が出席して第五十三回定期総会が開催された。

河野秀夫副理事長の総会司会の下、櫻田副会長(三宅島)が「高齢化の進行や休会中の島の復帰推進等、連合会運営を取りまく環境は依然として厳しいものがあります。本日は例年になく、多数の方々にご出席いただき感謝申し上げます」との開会の辞で

総会が開幕した。大澤博紹会長から「五十有余年の連合会活動はみなさんの暖かいご声援のおかげと感謝しております。今後共、島出身者の交流が広がるよう地道な活動ではあっても、目標を持って努力してまいります。引き続き皆様のご声援をお願い申し上げます」と挨拶があった。続いて、三宅正彦都議会議員が来賓として登壇、「東京都は島嶼全体の魅力向上を目指し、それぞれの島が誇るべき魅力を掘り起こすため、様々な機会を通じて伊豆諸島小笠原諸島のピアー活動を行ってまいります。郷友連合会においても、なお一層島嶼との交流を続けて欲しい」との希望が述べられた。次に、山田副会長(神津

島)が議長に選出され審議に入った。第一号議案は、平成二十九年年度事業報告について、下記の通り重点課題の活動状況について梅田理事長から報告の通り承認された。

1. 役員一人一人が活動できる組織体制の推進
2. 神津島旅行の実施
3. 魅力ある広報活動の推進
4. 全島の加盟推進
5. 各島郷友会との交流促進
6. 財政基盤の改善を目指す
7. 硫黄島帰島促進運動に関心を寄せる

島を挙げて歓迎を受けると共に、行政との交流会が実現した。島の自然を満喫すると同時に、懇親会では新鮮な海と山の幸を堪能、また芸能保存会による伝統芸能を見学、島のおもてなしに大いに感動した盛会旅行であった。

連合会の活動状況を広く発信すると共に、島のホットな話題や埋もれた歴史にも光を当て読んでもらえる連合会だよりの発行に苦心した。

役員会機能の明確化(理事会・常任理事会の分離新設)と、専門部会、運営事務局の新設により実務作業のスピード化が進んだ。

四十七名が参加した。島を挙げて歓迎を受けると共に、行政との交流会が実現した。島の自然を満喫すると同時に、懇親会では新鮮な海と山の幸を堪能、また芸能保存会による伝統芸能を見学、島のおもてなしに大いに感動した盛会旅行であった。



公益財団法人小笠原協  
会を訪問して小笠原村の  
情報収集に努めた。  
次に、平成二十八年度決  
算報告を北井会計から、  
監査報告を村松監事が行  
い承認された。  
第二号議案は、平成三  
十年度の事業計画及び収  
支予算について梅田理事  
長から以下の新年度重点  
活動4項目と予算説明が  
あり承認された。  
①八丈島、青ヶ島旅行を  
行い交流の輪を広げる。  
②島出身者の視点で魅力  
ある連合会だよりの発行  
を推進する。  
③連合会活動が目指すべ  
き姿を議論し財政基盤の  
改善を目指す。  
④休会中の島復帰を応援  
し全島加盟を目指す。  
第三号議案は任期満了に  
よる会長、理事長、監事  
の改選が行われた。

会長に大澤博紹氏、理事  
長に梅田勉氏、監事に岩  
田洋子氏を再任、村松栄  
子氏は退任、河野秀夫氏  
を新たに選任した。  
大澤会長は再任挨拶  
で、「島嶼出身者の交流  
を図ると共に、島の魅力  
を伝えていくため地道な  
努力を続けていきたい」と  
の抱負を述べた。さら  
に、理事長、監事より就  
任挨拶があり議案の審議  
を終了した。  
続いて、八丈島、青ヶ  
島旅行計画について河野  
秀夫旅行専門部長から、  
「個人旅行では知る事の  
できない島の歴史や伝統  
文化の魅力に接し、参加  
者だけでなく島の人たち  
との交流・親睦を深める  
ことができるよう全力で  
取り組みます」との募集  
説明がありました。  
次いで山口副理事長は  
閉会の辞で「半世紀に亘  
る郷友連合会の歴史をさ  
らに積み重ね、今後益々  
伊豆諸島小笠原諸島の交  
流が広がる活動を望みま  
す」と挨拶した。  
この後全員で写真撮影  
が行われた。記念写真に  
納まりきれないほどの盛  
況ぶりに笑顔があふれ



【懇親会報告】  
休憩後、沖山副会長（八  
丈島）の名司会で懇親会  
が行われた。  
開演に先立ち秋廣副会  
長より、「本年六月には  
小笠原諸島が返還されて  
五〇周年、この機会に小  
笠原の連合会加入の実  
現、さらに休会中の島の  
復帰を促進し、名実とも  
に東京島嶼全体の郷友連  
合会として発展できる足  
掛かりの年にしたい」と  
挨拶し乾杯を行った。  
続いて、硫黄島帰島促  
進協議会副会長の伊藤謙  
一様が来賓として挨拶  
し、硫黄島帰島運動の状  
況について出席者全員が  
熱心に傾聴し、硫黄島へ  
の関心を新たにしました。  
懇親会では神津島出身  
の金田津代美さん、金田



栞（しおり）さんによる  
現代舞踊が披露され、歌  
謡曲や民謡などに合わせ  
て踊る舞踊は華やかで素  
晴らしい衣装やメイクと  
ともに見事な舞は出席者  
を魅了しました。  
さらに利島出身者4名  
による「クローバーズK」  
のバンド演奏は、アコー  
スティックギターを中心  
に若々しい活気に満ちた  
軽快なリズムと共に、生  
まれ育った島を思い出す  
オリジナル曲の演奏に聞  
き入った。  
司会担当者（沖山副会  
長）は和服姿で登場、プ  
ロ顔負けの軽妙な語り口  
で大いに出演者を盛り上  
げ、総会に相応しい懇親  
会の雰囲気となりました。

微力ではありますが、  
連合会の運営を通して伊  
豆七島及び小笠原諸島の  
発展に寄与することがで  
きるよう、精一杯努めて  
参る所存でありますの  
で、皆様のご支援ご協力  
をお願い申し上げます。  
いうまでもなく、今連  
合会が抱える課題は、全  
島加入による組織体制の  
整備、財政基盤の改善や  
連合会だよりの充実並び



《ごあいさつ》  
郷友連合会会長  
大澤博紹

皆様には時下益々ご清  
栄のこととお慶び申し上  
げます。  
平素より連合会活動に  
格別なるご理解とご支援  
を賜り、厚く御礼申し上  
げます。  
私儀 本年四月二十九  
日の第五十三回定期総会  
において、会長に再任さ  
れました。さらに重責を  
担うこととなり、決意を  
新たにしているところで  
す。  
この旅行で郷土の文化  
や史跡、名所景勝地を見  
聞するとともに、地元の方  
々との交流を行い、島  
めぐり事業の目的に寄与  
できれば幸甚であります。  
皆様のご参加をお待  
ちしております。  
終わりに、皆様のご健  
勝とご多幸をお祈り申し  
上げ挨拶とさせていただきます。

# 大島会からの近況報告

大島会 河野 秀夫

「第九回椿弦楽四重奏団 宮澤賢治来島九十周年記念コンサート」が盛大に行われた。

六月十三日(木)大島町開発センター(大島町・観光協会等後援)に於いて、多くの来場者を迎えて標記演奏会が開かれました。これは、今から九十一年前の一九二八年(昭和三年)に賢治が大島に来島したことを記念して、平成二十一年から継続開催しているものです。当時、大島で病氣療養中だった伊藤七雄氏が、友人の賢治に農芸学校開校の助言を求めたところ要請に応じて来島し、よほど印象深かったのか元々は一泊の予定を二泊に延ばすとともに当時の思いを「三原三部」という長大な詩にも遺しています。

当日は宮澤家の当主宮澤和樹氏が「宮澤賢治と伊豆大島」のテーマで特別講演し、その後弦楽四重奏の音色を楽しみました。このコンサートは郷友会の総会にも出席された株式会社 椿 の日原



氏が「農業と芸術を大事にする」という賢治の考えに共鳴して芸術活動の実践として取り組んでいるものですが、既にご存知だと思いますが二〇一六年(平成二十八年)二月に中国で開催された国際つばき会議で、椿花ガーデン・大島公園・大島高校の三つの椿園が「国際優秀椿園」に認定されるという快挙を達成しました。日原氏はこの認定に向けて積極的に取り組んできました。この三園同時認定は、世界中の椿愛好家の大きな話題となりましたが、これを機に「ヤブツバキ伊豆大島」椿の島として広く世界に認められ来島者がさらに増えることを期待しています。

【参考】  
宮澤賢治「三原三部」  
一九二八年六月十五日  
黒い火山岩礁に  
いくたび いくたび  
磯波ごあがり  
赤い排筒の船もゆれ  
三原は見えず  
島の奥も見えず  
黒い火山岩礁に  
いくたび いくたび  
磯波は下がり  
風はささやき 風はささやき(以下省略)

## ・大島イベント情報

- 8月11日(土)〜12日(日) 伊豆大島夏まつり
- 8月11日(土) 花火大会
- 9月8日(土) 伊豆大島御神火ライド
- 10月中旬から 大島オータムフェア
- 10月27日(土) 三原山ヒルクライム大会
- 10月28日(日) 全日本マスターズ選手権
- 11月25日(日) 伊豆大島C級グルメ(夏・秋の大島へのご来島を心からお待ちしています)

# 利島村と檜原村とが友好村の盟約締結

郷友連合会 理事長 梅田 勉

平成二十九年十月十九日檜原村役場で前田福夫利島村長、檜原村坂本義次村長が「友好村盟約書」を締結した。

利島村と檜原村の交流が始まって5年、毎年夏になると檜原村の子供たちが利島を訪れ、子供たち同士元氣いっぱい海水浴やシーカヤック(人が持ち上げて移動できる一人乗りのカヌー)、イルカウォッチング、釣りなどの海の活動を行い、冬は長野県白馬村で合同のスキー教室を開催している。昨年夏休みには檜原村の協力で、中学生のオーストラリア留学も実施した。両村では将来を担う子供たちが、交流を通してそれぞれの夢を語り合い、共に成長することを願っている。

さらに、交流は子供たちだけに留まらず、「檜原村の払沢の滝故郷夏まつり」では利島の特産物であるタカベ、ウツボチップス、椿油、サクユリ焼酎などを販売している。檜原村の木材を使って久保

里山村営住宅の建設など産業 分野にも交流が広がり、昨年七月には檜原村長が来島し盛大に村営住宅の竣工式が行われた。

両村の交流拡大を一層確かなものにするため、友好村として歩むこ

とを両村が合意し、寺田優議長、山口順一教育長立ち合いの下で「友好村盟約書」が調印された。利島村では今後、「盟約書」に基づき、利島村、檜原村が益々発展し、両村民の親交を深め、共に幸せに暮らせるよう努めていきたい。

上記は利島広報誌に掲載された前田福夫村長からのメッセージです。



# 神津島の二つの友好書

神津島郷友会会長 山田 恵照

## (1) 友好都市盟約書

神津島村史によると長野県佐久市に約三〇〇戸の「神津」という姓を名乗る家があることを聞き昭和五十一年十一月松本村長他二名が佐久市を訪れたところ、墓地にこのことを証明する大きな碑があることが判ったのでこれを調査した、とある。

「碑文」には「神津氏大祖八大職(社)中臣鎌足公後裔下総領主藤原秀卿末裔藤原定国伊豆七島を鎮領シ神津島二居ル…略…」※藤原秀卿は平安時代中期の人

藤原氏一族が神津島に何故渡ったのか 神津島を離れる時神津姓を名乗ったのは島を忘れないためか、藤原姓を名乗らなかったのは何故か、神津島には藤原姓は一軒もなし。村は江戸時代と明治時代に大火がありお寺も過去帳も消失した。昭和五十四年七月に、佐久市の神津同族会から神津武士市長以下多数来島した。友好が深まると共により以上の絆を結ぶべき

であるとの気運が高まり、三浦大助佐久市長と山下繁神津島村長との間で友好都市の盟約書を締結した。平成六年三月二十四日であった。互いに訪れあつてから十七年目であつた。それから佐久市との交流は神津島の小五く中の児童生徒約二十名がスキー教室に参加し、八月には佐久市より約九十名のスタツプと児童が「佐久つこ道場」として来島し、泳いだりして楽しんでる。毎年五月五日の鯉まつりに島側から出席したり、物産展を開催している。

## (2) 神津島村・奥多摩町友好交流協定書

奥多摩町と神津島村との関係は昭和二〇年(一九四五年)七月太平洋戦争末期における神津島から奥多摩町への強制疎開があり、一一二世帯五六七人を受け入れて頂いたことが始まりである。敗戦から七三年、当時の記憶もうすれ、これまでの経緯を知

る人も少なくなつた。これからの世代を担う子ども達の為に、歴史を繋げ、更なる交流を通じて産業・教育・文化の向上を目指します。お互いに長期展望に立つて友好の絆を深め、両町、村の発展と平和を願ひ二度と戦争を起ささないという思いから友好交流の協定が、平成二十九年十月二十九日、締結された経過が記されている。青梅線古里村で生まれた子、こり枝さんも七十三歳になつた。現在は双方の子ども達が交流体験や奥多摩ふれあい祭りでの交流物産展や両町、村議会の相互視察が行われている。

※この記事を書くにあたり神津島村役場清水庶務課長さんより資料を頂き参考にしました。

(文責 山田)



# 我が島の一押し

三宅島郷友会 監事 高松 英夫

「一押し」は、最も推奨することか、一番のお勧めなどの意味があるが、敢えて「最も」や「一番」などの言葉を外すことを許していただき「今、関心のあること」を私見で綴らせてもらうこととする。

## アカコッコの数が殖えてきたこと

アカコッコ館の資料によると、2016年5月推定約7,777羽。これは2009年の推定約4,400羽に比べて1.8倍に殖えてきている。最近では2000年に噴火災害を受けた島であるが、その後の火山ガスの減少や積極的な植林活動等により植生の回復が見られること、明日葉栽培を中心にして畑仕事を営む人が増加して、森の中に畑の点在が顕著になつてきたことなどを大きな要因として挙げている。実に嬉しいことである。ボードアイランドを売りにしている三宅島である。アカコッコだけでなく他の野鳥に波及していることはいまでもな

い。朝夕の鳥のさえずりが濃くなつてきたことは確実で、多くの姿を身近で見かけることは、多くの癒しを与えてくれるだろう。アカコッコ館は1993年にオープン。今年で25年目を迎える。その間紆余曲折はあつただろうが、地道な活動は一步一步確実な「輪」を広げてきている。島を訪ねられたら是非立ち寄りてもらいたい。

## 巨樹の島のこと

会誌「巨樹・巨木林」(No.55) (平成29年8月発行) が手元にある。その中の「特集巨樹の島三宅島」が多くの紙面を割いている。これは島在住の佐久間文夫氏(巨樹・巨木林の会会員)が三宅島に巨樹・巨木について、島中を足繁く7年余にわたり調査した結果を詳細にまとめたものである。それによると坪田地区にある「スタジオ」が、これまでこの部門第一位であつた「御蔵島の大ジイ」を抜いて、胸高幹周囲19、25mで見事一位に輝いたのである。

島が形成されて以来、度重なる噴火災害に遭いながらも営々と樹齢を重ねてきたこのスタジオを初めとして生命力の逞しさは驚嘆に値する。アカコッコもその枝葉に羽を休めたらう。実を啄んだらう。畑作業に汗を流す島民に木陰をつくってくれたであらう。現在のところ、巨樹・巨木の一般公開はされていない。木々を取り巻く環境の条件整備をすることが先決だからである。ここまで書いてきて、そつとやつて欲しい気もするが…。

## 太宰治が来島したこと

今年没後七〇年となる作家・太宰治だが、昭和12年5月、29歳の時だ。このことを「小さいアルバム」に書いている。是非ご覧の程を、残念ながら約束の頁数がきつてしまつた。機会があればこの頁を詳しく続けた



## 「花と緑と温泉の島 八丈島」に ザトウクジラがやってきた

八丈町役場総務課 山越 整

ちようどのこの原稿のご依頼をいただいたところ、東京湾でクジラが目撃があいつぎ、NHKではクジラがタンカーの真横でジャンプする姿がニュースで流れていました。

おりしも八丈島では、平成二十七年十一月から数多くのザトウクジラが来遊するようになりました。

以前は、年に数回の目撃情報がある程度だったものが、島のあちらこちらで、しかも岸から数十メートルという至近距離で見れることもありま

す。多い時には5頭くらいが一度に見られ、潮吹きやジャンプ、尾びれを海面にたたきつける行動など、躍動感あふれる生態を目の当たりにすることが

できます。また、スキューバダイビングで海に潜る方は、「ソング」と呼ばれるオスの求愛の鳴き声を聞くことができたり、ザトウクジラと水中での遭遇も経験する人も出ています。

八丈町では早速、東京

海洋大学大学院鯨類学研究室と共同で八丈島

でのザトウクジラの基礎調査に乗り出しています。調査にはNHKも同行取材しており、現在に至るまでに何回も二

ユースとして放映されていますので、郷友会会員の皆様もご覧になったことと思います。

東京海洋大学との調査も二年目を迎えたところですが、平成二十九年十一月から平成三十年四月のシーズンでは、調査船による海上調査で発見頭数が延べ約四〇〇頭にもなりました。

八丈町のホームページで調査の速報や映像等を紹介していますので、是非ご覧ください。

八丈島では陸上からはもちろんのこと、温泉に入りながらや、海辺の宿泊施設、ご自宅が海辺

にあるお宅はご自分の部屋から見れるのが特徴です。八丈町では、冬場の新たな観光資源としての期待を持って

いると同時に、学術的にもザトウクジラの繁殖地としての確認がされる

と、「世界の繁殖地の北限」という新たな知見が得られることとなりま

す。今年の二月からは地元都立八丈高校の生徒さん

による、ザトウクジラをデザインした町営バスが路線を走っています。町民の皆さんは今年もまたザトウクジラが八丈島に

来ることを心待ちにしています。ちようど東京島嶼郷友会連合会主催による南国「八丈島」懇親旅行が企画されています

が、八丈島にザトウクジラが来遊し始める十一月にいらつしやること

です。運が良ければまじかにご覧いただけるかもしれませんね。ザトウクジラに出会えることを楽しみに、是非多くの方にご参加していただければ幸いです。皆さんにお会いできることを楽しみに、八丈島でお待ちしています。※八丈島ではホエールウォッチングツアー（ボートによる）は

まだ組まれていません。個人による陸上からのウォッチングが主流です。

## 硫黄島

硫黄島帰島促進協議会 副会長 伊藤 謙一



硫黄島の全景

東京から一、二〇〇キロ南方にある硫黄島は東京都小笠原村に属します。

北硫黄島、硫黄島、南硫黄島の三島は火山列島と呼ばれます。戦前は硫黄島に一、〇〇〇人以上が暮らし、北硫黄島にも住民が在住していました。

硫黄島は太平洋戦争で非常に激しい戦いがあつたことで有名です

が、豊かな暮らしが営まれていた島としてはあまり知られていません。

戦争激化に伴い住民が強制疎開で本土に移されてから七十四年間、一九六八年にアメリカから小笠原が返還された後も住民は一度も故郷の島に帰ることができません。硫黄島に至っています。

硫黄島民にとっては未だに強制疎開は解かれておらず、本当の意味での戦後すら

迎えていません。

硫黄島玉砕戦では日米双方に多くの犠牲者が出ました。その中に軍属として島に残された八〇余人の島民も含まれます。私の親戚で一八歳のいとこ同士だった二人も命を落としました。毎年秋に東京都主催で入間基地から航空機で、六月には小笠原村主催で小笠原丸による慰霊墓参があります。昨年六月の墓参は渇水による水不足等の諸事情で中止になってしまいました。今年是非硫黄島での慰霊式典に参加したいと思えます。東京島嶼郷友連合会の皆さんにも硫黄島のことをもっと知って欲しいと考えています。



今も残る軍用機の残骸

# 歴史発掘③ 利島

郷友連合会 梅田 勉  
理事長

## 船頭彦四郎の物語

利島郷土資料館に彦四郎の墓碑の写真と功績を記した説明書きが展示されている。

彦四郎は利島の大沼家に生まれて御蔵島に渡り航海術を伝えた。十八世紀の初め、第八代将軍戸川吉宗によって主導された享保の改革

の頃である。

説明書には、当時三宅島の支配下にあった御蔵島の独立と、江戸、御蔵島間廻船の村営化に貢献したと記されている。

文献によると、彦四郎は御蔵島独立のために働いたが、享保十三年十一月（一七二八年）三宅島に渡った後に悲惨な最期を



利島の全景

遂げたと伝えられる。当時、御蔵島では人口が増え農地開拓をしても農作物が不足し、食糧問題が深刻で暮らしたが壮絶であったことと、三宅島の支配から脱するため山の桑、ツゲ等を切つて内地へ輸出して資金を作り、島の外から食糧を買い入れる必要がある



左が彦四郎、右が奥山交竹院の墓塔

あった。

しかしながら、御蔵島には江戸と往来できる船はなく、享保九年（一七二四年）代官役所に廻船を所持することを願ひ出て翌年許可され、利島の重郎衛門から五人乗り八反帆の古船を買い受けることとなったが、御蔵島には船を操縦できる者がいなかった。そこで利島生まれの彦四郎にお願いし御蔵島島民に航海術を教えた。御蔵島では明治になつて島の独立に功績のあった奥山交竹院他の墓碑を建設した折、その側に御蔵島の恩人として「利島之彦四郎の碑」を建て功績を不朽に伝えることとしたのである。

今年も十一月十七日十八日に池袋サンシャインシティで開催が決定しました。主催は国土交通省、日本離島センター全国四百十八の有人島から約二〇〇島が出展する、東京からは、大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、父島、母島が出展し各ブー

# 11月17・18日アイランダー開催

## 9月28・29・30日 愛らんどフェア 2018開催

二年ごとに竹芝桟橋で行う「島じまん」とは別に、東京島嶼振興公社が主催する「愛らんどフェア2018」が有楽町駅前（九月二十八日（金）二十九日（土）三十日（日））に開催されます。（昨年は新宿駅西口広場で開催）、コンセプトは東京の島には「愛がある」

会場には大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、父島、母島の特産品が並び、イベントステージでは観光情報や島の魅力紹介と伝統芸能も披露されます。是非お出かけください。

入場無料

全国の島々が集まる祭典  
**アイランダー**  
An interactive event promoting discourse between urban and island people.

11/17(土) & 18(日)

開催決定  
**池袋サンシャインシティ**  
文化会館3F 東京ホールC

17日 OPEN 11:00 - CLOSE 19:00  
18日 OPEN 10:00 - CLOSE 17:00

キービジュアル作成中!! 決定次第、更新致します。  
今年の特産品はオーガニックで、無農薬栽培されています。ぜひご覧ください!  
アイランダー2017

スでは各島自慢の特産品を販売。島へのアクセスや観光スポットなどをPR、また島の伝統芸能を披露するアイランダーステージ、島料理が食べられるグルメ食堂では青ヶ島屋の島寿司が一日一〇〇食限定で例年販売され人気となっている。

## 伊豆大島産自然薯 島の恵み

三原山の大自然に抱かれ、美しい空気と御神火の土壌で育った、ねばりと風味が自慢の自然薯ブランド「島の恵み」

ご注文・お問い合わせは

↓

<生産者・販売元>  
**有限会社ランド興業**  
東京都大島町元町字北の山83-2  
電話:090-3099-6609  
E-mail:daisin-s@triton.ocn.ne.jp

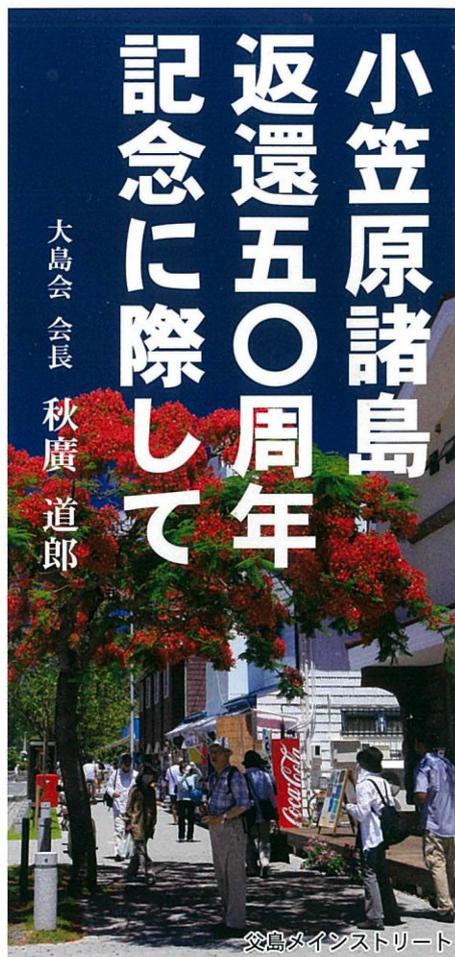


ハハジマメジロ

①小笠原に人がはじめて住み始めたのは、文政十三年（一八三〇年）で、イタリヤ系イギリス人マテオ・マザロやアメリカ人ナサニヨル・セーボレー

大島会の河野秀夫さんの投稿にありますように、小笠原諸島は昭和四十三年六月二十六日、日本の施政権下に復帰し、今年で五十年の節目を迎えました。

太平洋戦争後の昭和二十一年一月二十九日、連合軍最高司令官マッカーサーの指令により米国の直接軍政下に置かれて復帰まで二十二年の歳月がかかったのです。この指令は、沖縄諸島、奄美群島、伊豆諸島とともにな



大島会 会長 秋廣 道郎

父島マインストリート

### 小笠原諸島の歴史を知る

されたものでしたが、伊豆諸島は指令から二ヶ月後に、奄美群島は昭和二十八年十二月二十五日、沖繩諸島は昭和四十七年五月十五日に日本に復帰したのでした。これらの諸島の戦争の惨禍と日本復帰の歴史は、日本の苦難の戦後史を示すものであり、私達伊豆諸島出身者は決して忘れてはならない史実です。今般、小笠原諸島返還五十周年記念に当たり、まず、小笠原諸島の歴史をひもといて見ましょう。



母島の集落



父島の街並み

らでした。日本人では、文久二年（一八六二年）江戸幕府の移民計画により八丈島からの三十名を含む三十八名であった。小笠原が国際的に日本領土として認められたのは、明治九年（一八七六年）で、小笠原に居住していたアメリカ人やイギリス人七十一名は、明治十五年（一八八二年）までには全員日本に帰化し日本国籍を取得した。

父島に須崎飛行場が完成したのは、昭和十二年六月一日で、昭和十四年に海軍航空隊が開設された。小笠原（硫黄島・父島・母島）への米軍による空襲は、昭和十九年六月十五日がはじめてで、父島では、大村の町の三分の一が消失し、母島でも数名の死者がでており、硫黄島では、グラマン機等何度にわたり、一〇〇機から一六〇機来襲し、全島が被害を受けた。

小笠原は本土防衛の前線基地となり、昭和十九年戦況が緊迫し、米軍上陸必至の情勢の中、日本軍による強制引き上げ命令により本土に疎開した。その時の小笠原諸島に住民は、計七七一一人（父島四二四八人・母島二一〇九人・硫黄島一六四人・北硫黄島九〇人）であり、本土に引き上げて来た島民は全ての財産を島に残し、殆ど着のみ着のまま、大半は身寄りもなく、寺院・学校等で集団生活を余儀なくされたのである。尚、軍属として残った島人は、八二五人いた。僅かに生き残った青壮年島人も戦後米國本土に送還された。

運動 昭和二十一年一月二十九日、米國の直接軍政下に置かれたことは、戦前強制的に島から引き揚げさせられたが、戦争が終われば戻れると信じていた島民にとって、大きな衝撃であった。 帰島運動は、昭和二十一年、マッカーサーに対する帰島嘆願書運動により始まったが、それに先立ち、欧米系島民は、アメリカ市民であることを主張し、嘆願運動を始め、昭和二十一年許可を得て、十月十七日、一二九名もろの人が父島に帰ったのである。

全島民の帰島運動は、昭和二十二年七月、小笠原島郷促進連盟を結成し、島民大会は東京下谷竹町小学校で八〇〇名の参加のもと開催され、菊池虎彦委員長・横田竜雄副委員長が就任した。その後の二十一年にわたる苦難の帰島運動が始まるのである。 注記 この拙い記事は、「小笠原」（公益財団法人小笠原協会創立五〇周年史）によるものであり、秋廣道郎が逐次引用したものである。

# 青ヶ島屋の紹介

## 幻の焼酎「青酎」と新鮮な島の食材を堪能

郷友連合会 理事長 梅田 勉

新宿駅西口を出て、新宿大ガードを右手に小滝橋通りをしばらく歩いて左折するとすぐそばのビル二階に青ヶ島の看板が目に入る。店の外側に飾られた大きな青ヶ島の全景写真には日本の秘境と書かれ圧倒された。都心から南へ三五八km、伊豆諸島の有人島最南端に位置する島が青ヶ島である。二重式カルデラ火山の外輪山からの眺望は絶景

だ。5月のある日、評判の店を取材しようと店長に取材を申し入れたところ快諾を得て訪問した。西新宿に店を出して六年、連日賑わっている理由が判明した。

伊豆諸島の島々の写真や名産の青酎の瓶が並んでいる、店主の菊池栄春さん(37)と一緒に店を切り盛りしている仲の良い弟さんとも対面した。青酎の美味しさに引かれ



てこの店を訪問、若いスタツプが飛び切りの笑顔で迎えてくれました。五時半を過ぎたころにはたちまちお客さんで一杯に。

ツマミが次々と運ばれて来る、葉生姜を味噌とマヨネーズでガリつといったき、みずみずしい島きゅうりは塩で食べると一段と酒が進む。

「島で取れた明日葉の料理です」、「八丈島名物のカツオです」、「青ヶ島で獲れたピンクがかった色の刺身はカンパチです」、「こちらは島の高級魚オナガダイの刺身です」、「家庭で伝わる手法で造ったマイルドな青酎です」、「全種類の青酎を飲めるのはこの店だけな

んです」、「島の木を削った特製グラスで飲むと青酎が一段と美味しいんです」、店長はお客さんに料理、お酒、島のことを丁寧に説明することを忘れない。島の食文化を都会の人に知ってもらいたいと始めたとか。「たくさんのお客さんに支えられています」と笑顔で楽しそうに語っていた光景が印象的でした。みなさんも是非足を運んでみてはいかがでしょう、伊豆諸島を身近に感じさせてくれる手作りの素敵なお店です。

## 大島医療センター

伊豆大島唯一の有床診療所。公設民営の医療機関です。プライマリーケアから2次救急まで、島民の皆様の健康を守り、心から信頼される医療機関を目指し日夜努力しております。

大島町は伊豆七島最大の島で人口約8,300人、風光明媚な島です。海は太平洋の大海原、陸に活火山として有名な三原山、空に伊豆半島をシルエットに沈む夕日、夏の夜空には天の川、冬の夜空には煌々満天の星が望めます。また、波浮の港に代表されるように歌人の集う歴史ある島でもあります。

しかしながら、高齢者率はすでに30%を超え、少子高齢化の進む島でもあります。当センターは、病床数19の有床診療所ではありますが、現在、2次救急医療機関、労災指定診療所、生活保護指定医療機関などの指定を受けて運営しております。夜間の救急患者様にも対応できるよう、24時間体制をしいています。

内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科の常勤医師、耳鼻咽喉科・皮膚科・心療内科・眼科の非常勤医師、そしてコメディカルスタッフ一同、離島医療の先駆けになれるよう努力してまいります。



## 建設業

# 山田建設株式会社

代表取締役 清水敏行

〒100-0101 東京都大島町元町2丁目9番16号  
 TEL 04992-2-2261  
 FAX 04992-2-1750

土木・建築工事一式請負、生コンクリート製造販売  
アスファルト混合物製造販売、セメント・建材販売

# 村松興業株式会社

〒100-0211  
東京都大島町差木地字クダッチ無番地  
**TEL 04992-4-0511**  
**FAX 04992-4-0567**

1. 人々が安心して働ける企業
2. 島の発展に奉仕する企業を目指しております「社訓」より

# 三宅島建設工業(株)

【本社】 〒100-1103 東京都三宅島三宅村伊ヶ谷 333  
電話 04994-2-0163 FAX04994-2-1137

【東京支店】 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-5-1  
アルテビル芝大門  
電話 03-3459-8086 FAX 03-3435-9687

【出張所】 〒100-1301 東京都御蔵島村  
電話 0499-8-2229 FAX 04994-8-2323

外口電気 検索

おかげさまで  
創立50年

## 報恩感謝

Innovative Thinking with Mind and Heart.

高品質な電子部品、EMS事業等  
“ソリューション・ビジネス”も充実

電子部品商社  
**外口電気株式会社**  
<http://www.metroele.com>

特約店・販売店・代理店  
コーセル(株)  
日本電産コバル電子(株)  
オムロン(株)  
KOA(株)

本社・東京営業部  
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-19-4  
TEL: (03)3253-6661 FAX: (03)3256-6660  
営業拠点: 八王子/神奈川/千葉/静岡/大阪/福岡

# 岡太楼本舗

代表 平松一成

〒100-1101  
東京都三宅島三宅村神着1168

**TEL 04994-2-0051**  
**FAX 04994-2-0676**







漁師のオーナーが調達する  
新鮮な海の幸が自慢の宿

## 民宿 しんき



代表 梅田孝規  
〒100-0301  
東京都利島村51番地  
電話 04992-9-0028





釣り客のリピーターが多い宿  
遊漁船(雄成丸)を所有

## 民宿 寺田屋



代表 寺田 優  
〒100-0301  
東京都利島村58番地  
電話 04992-9-0251

ふるさと連絡線

# 居酒屋源八船頭

小岩本店

電話 〇三(三六五九)六六三六

(年中無休) 六六三九

新小岩店

電話 〇三(三六五一)一八八一

高架下店 (JR小岩駅前店)

電話 〇三(三六五九)六六五〇

八丈島黒潮が運ぶ  
新鮮な魚とあしたば料理

ガン デュー ヤ

# 居酒屋GANJUUYA

高円寺店

電話 〇三(二三三八)六〇一二

奥様公認居酒屋

人生晴れたり曇ったり

# 源八船頭

03-3659-6636

## いつでもどこでも 石工事施工します

株式会社 ホーヨーでは皆様からの信頼と繊細な技術で  
創業以来、数々の工事を受けさせていただいております。

神津、湊響寺での施工実績50件以上！

その他毎年、埼玉・横浜でも数多くの施工依頼をいただいております。

### 弊社取扱優良霊園のご紹介

#### 【埼玉県】

- 富士見メモリアルガーデン
- 大宮霊園
- 和光聖地霊苑
- 仏子聖地霊園

#### 【神奈川県】

- メモリアルサンステージ
- 横浜セントヒル霊園
- 横浜浄苑ふれあいの社
- その他、多数の霊園を取り扱っております。

#### 取扱い寺院 埼玉県

広源寺：曹洞宗 明圓寺：天台宗  
清泰寺：天台宗 浄安寺：浄土宗  
昌福寺：曹洞宗

#### 取扱い寺院 その他

光明院：真言宗 龍華寺：真言宗  
大増寺：浄土宗 自性院：真言宗  
法受寺：浄土宗 法雲寺：曹洞宗

## 株式会社 ホーヨー

代表取締役 清水 邦洋

【本社】 埼玉県富士見市水子4718-1  
〒354-0011 本社 ☎ 0120-660-089  
FAX 049-255-7068

【支社】 浦和支店・横浜支店  
【お問い合わせ】 フリーダイヤル 0120-660-089  
URL <http://www.ishio-hoyo.co.jp/>

八丈島焼酎



## 居酒屋 浜やん

〒180-0004  
武蔵野市吉祥寺本町2-8-1  
早川ビルB1  
東急デパート右横

TEL 0422-22-0422

通い、泊まり、住む  
ほっと・ハウス・豊玉

## 株式会社 ほっと・すぺーす

代表取締役 沖山 一雄

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北5-8-19  
TEL:03-5946-4310 FAX:03-5946-4311

### 編集後記

郷友連合会、たより第十二号発行にあたり寄稿いただいた各島の関係者及び編集に携わった方々に御礼申し上げます。だよりは各島の実情や動向及び活動状況を掲載し島出身者同士のつながりと郷土愛を醸成するツールとして重要な役割を果たしています。

今後皆様のご協力を得て紙面の充実に努めてまいります。さてこの『たより』の発行とともに主要な事業となつている島めぐり、今年是我が故郷八丈島です。故郷を離れて半世紀たった今、島への思慕・愛着は強くなるばかりです。島めぐりは平成十五年利島から実施し、八丈島は平成十九年につづき二回目です。

この島めぐりを通じてその実情を見聞きされ理解を深めささやかでも島の発展に寄与する機会になれば幸いです。

大澤博紹